

# 北国のどろぼうたち

## ビーバー Beaver

カナダのシンボルは、カエデとビーバー。開拓時代に毛皮貿易の的となったビーバーほど、カナダの発展に大きな影響を与えた動物はいない。ビーバーの名をとった地名は全国各地に残っているし、切手、硬貨、紋章のデザインにも多く使われている。

ビーバーは、ダム作りの名人。木の枝や泥で流れをせき止めて、巣を作ったり、食物の水中貯蔵所にするのは、あまりに有名だ。

水と落葉樹林のある所ならカナダ国内どこにでも生息している。毛皮が美しく、ヨーロッパでビーバー帽が流行った頃は、一年に何十万匹ものビーバーが殺されたという。今世紀後半に入ってから保護政策がとられた結果、カナダ国内のビーバーは急激にふえ、今ではふえすぎて集団餓死のおそれのある地域も出てきた。

## オオハクガン Greater Snow Goose

北アメリカに生息する三種のハクガンのうちのひとつ。羽の先(初列風切)が黒いのを除けば、あとはほとんど純白で、

とがった嘴はピンク色。北極のエルズミア島、ユリカ島、バフィン島北部などで巣をつくり、舌の両わきについたのこぎり状の「歯」で草の根をかみ切って食糧にする。



二十世紀初めには、世界中で三十羽ほどしかいなかったが、米加渡り鳥条約によつて三月十日から八月三十一日まです

べての渡り鳥の狩猟を禁止、また一九〇八年にケベック市で結成された狩猟家のグループがオオハクガンの繁殖地一帯を賃借して部外者による狩猟を禁止したため、今では約十五万羽に増えている。

オオハクガンは、表土や湖水が凍る九月中旬、北極を離れる。十月末には三万キロ離れたセント・ローレンス川河口にその姿を見せる。

## ヘラジカ Moose

体長三メートル、体重八百キロ、褐色の巨体を悠然とゆすつて歩くヘラジカの

姿は、アラスカ国境からニューファンドランド東端までの森林地帯でよく見かける。

倒木をまたいだり雪中歩行するのに便利な長い脚、湿地でも沈みにくい幅広い偶蹄、そして強靱な体力とバイタリテイで、どんな荒地でもやすやすと越えていく。

水中では五メートルも潜つて水底の草を食べたり、あるいは対岸まで二十キロを一気に泳ぐこともできる。

大食漢のヘラジカは、小枝や樹葉、水生植物などを一日に三十キロ近く食べる。食糧の乏しい冬になると、樹皮までがして食べ、林業に大きな被害が出ることも少なくない。

ヘラジカはクマやオオカミの餌食になるが、概して天敵が少なく、野生動物としてはふえすぎが問題となる珍しいケース。(カナダ全国に五十万頭以上いる。)

## カリブー Caribou

見事に枝の張つたツノで知られるカリブーは、北方カナダと南の山岳・森林地帯に広く分布して住み、二十五セント硬貨にも刻まれて、ビーバーとともにカナダ人に親しまれている。

主として地衣類を食べ、秋になると大群をなして南方の森林地帯に移動する。その様は、野生動物の見事なスペクタクルとして、北方観光の目玉のひとつになっている。

カリブーは、インディアンやイヌイッ



トにはなくてはならない貴重な経済資源で、肉は食用、皮は衣服や敷物、くつ、テ

ント、ツノや骨は針などの日用品に、糞は燃料に、と捨てるどころがない。

一九四九年の航空調査で約六十七万頭いたのが、五五年の調査では二十八万頭に減り、一時は絶滅も心配された。だがハンターの規制などによりその数は大部分回復し、現在は北方住民の生活の糧として上手な管理が目ざされている。

## ハイイロクマ Grizzly

ハイイロクマについては数多くの伝説があるが、その生態がわかつてきたのは、比較的最近になってからのことだ。

ハイイロクマ(グリズリー)は、ヒグマの一種で、ホツキョククマと並んで北米最大の肉食獣である。しやくれた顔と長いツメが特徴で、灰色クマとはいっても白から黒に近いものまで濃淡はさまざま。

以前は北米大陸の西半分にも広く住んでいたが、今日ではアラスカやアリゾナ、シユ・コロソビア州など、主として北西部の山や森に限られてしまった。シカやヘラジカなどを襲つこともあるが、食糧は主として木の根や葉っぱで、それほどの悍猛さはない。とくに好きなのがリスの類。たつた一匹のリスを穴から掘り出す